

学校統廃合は 本当に必要でしょうか

小規模校だからこそできることがあります

横尾中を小中一貫校に？

横山小、南横山小、横尾中を統合

和泉市教育委員会は、「中学校区にある全ての小中学校において8学級を下回る状況にある、横尾中学校区と富秋中学校区の2校区で、今後の教育環境（学校配置）のあり方について検討していきたい」としています。その理由としては、「コミュニケーション能力の形成や運動会などの学校行事、部活動などを勘案すると、一定の学校（学級）規模が望ましい」としています。その上で、「施設一体型小中一貫校を含む、今後の横尾中学校区のあり方について、地域と協議していきたい」としています。

一貫校にしても小規模校の「デメリット」は解消されない

横尾中学校区を施設一体型小中一貫校にしても、南横山小学校の特認制度がなくなれば、多くの学年は単学級のままで、市教委が小規模校のデメリットとしてあげている「クラス替えが全部又は一部の学年でできない（人間関係の固定化）」、「クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない」などの問題は解決しません。

十分に話し合い、合意形成を

「学校適正配置に関する意見交換会（第1回）」に出された資料は、小中一貫校設置に向けた意図的な資料が多くなっています。しかし、市は、あくまでも一貫校ありきではなく、「地域や保護者の意見を聞きながらすすめていきたい」としています。学校統廃合、小中一貫校建設の是非を十分に話し合い合意をつくる必要があります。

魅力あるまちづくりで人口減少に歯止めを

和泉市は、児童・生徒数の減少を「学校配置」の見直し、つまり学校統廃合の理由にしています。市長はタウンミーティングで「横山に魅力ある学校ができれば流入要因となる」と述べています。しかし、統廃合しなくても、現在の3校は、小規模をいかした魅力ある教育を行っています。人口の減少を止めるには、市街地から1時間以内で、自然に囲まれた魅力ある土地柄を活かすなど、住みたいまちづくりを市がすすめていくことが、求められているのではないのでしょうか。

小規模特認校

南横山小学校は 立地をいかした魅力いっぱい

南横山小学校は、平成18年度から特認制度を実施しました。平成22年には特認児童数が地元の児童数を超えました。さまざまな取り組みの中で、最近では、新1年の特認の希望者は応募の20名を超え抽選を行う年もあるほどです。これは、小さな学校であることを十分に活かすことで得られている大きな魅力よるものです。

南横山小学校には、学習の場として府内唯一の学校林があります。そこでの自然学習や炭焼き体験、七草がゆ、地域の芸能「笹踊り」など、地域と一体となった多くの体験型行事が行われています。また、教科学習でも、少人数をいかして一人一人が活躍できるように、発表や話し合いを重視した取り組みもされています。



炭焼き



「笹踊り」練習風景

南横山小学校ホームページより



和泉市の子どもと教育を守る会 連絡先：泉北教職員組合

TEL 0725-41-1953 FAX 0725-44-6570 E-mail:senbokukyouso@gmail.com

このピラについての、ご意見・ご質問をおよせください。2018.4.発行